

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：ぶどうの実梶ヶ谷園	種別：認可保育園
代表者氏名：菅原 まり子	定員（利用人数）： 50名（53名）
所在地：〒213-0014 川崎市高津区新作1-18-4	
TEL：044-870-3553	ホームページ：http://budou-ki.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ぶどうの木	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 14名
専門職員	園長 1名 看護師 1名
	保育士 20名 栄養士 1名
	調理員 3名
施設・設備 の概要	(居室数) (設備等) 3室 事務室・調理室・玄関ホールなど

③理念・基本方針

「シアワセな未来を創るひとを育てる」

人と人が繋がりあう中でひとり一人が大事にされ人としての成長の根が育まれていきます。子どもたちがその根を育む大切な乳幼児期を過ごすぶどうでの経験を通してやがて自ら希望を切り開き、ひとと共生し、社会に貢献する'ひと' となっていくことを願っています。

そのために保育の3本の柱「勇気づけの保育」「裁かない保育」「見守る保育」を軸に「一人ひとりを大切にする子ども主体の保育」を実践します。

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・ワンフロアで壁のない保育室を活かし、その子が興味関心を持ったことを十分に満喫できるように、クラスだけにとらわれるのではなく他のクラスの職員とも連携をとりチーム保育を行っています。
- ・大人は教える、指導する役割ではなく、安易に答えを教えたり、先走って先取りしてしまったりせず、一緒に不思議がり考えながらその子の「知りたい」「わかりたい」を育てていけるように関わっています。また、少し年上の子どもがやる様子を見たり、得意な子どもの遊ぶ様子を見ることで「自分もやってみたい！」と憧れの気持ちを持つことで自らの意欲につながるように見守っています。
- ・見せるための行事は行わず、ひとり一人がそこに向かうまでの過程に意味があることを大切にしています。
- ・「みんなちがって、みんないい」様々な個性を持つ子どもと大人がいることで育ちあえることを実践したいと考えています。
- ・アート遊びでは地域の親子にも参加していただく機会を設け、園の様子、保育者のかかわり方を通して子育てのヒントになっていただけるように楽しい時間を作っています。またちいさなぶどう図書館として園の前に誰でも借りることのできる図書を設置し、ぶどうの実が身近な存在になっていけることを目指しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年8月1日（契約日） ～ 2023年3月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（ 2016年度 ）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもたちは主体性や自主性を大事にされて、のびのびと園生活を楽しんでいます

園は子どもの主体性、自主性を大事にして保育室内の環境を整え、1日の過ごし方を考えています。

保育室内は発達、年齢に応じて、子どもの興味のある遊びができるように、様々なおもちゃや教材があり、工夫して作られたコーナーがいくつもあります。制作や遊びは継続してできるように保管しておく場所が設けられ、じっくり取り組む時間が保証されています。ワンフロアの特性を活かし、クラスの垣根なく興味あることを選んで遊べるようクラス間の行き来も日常的におこなわれています。子どもたちは毎日、自分の好きなことを自由に遊ぶことができ、異年齢の子どもたちに刺激を受け、挑戦してみようと頑張ったり、得意なことを優しく教えたりしています。配慮の必要な子どもたちも同じようにのびのびとし、園の子どもたちは皆、笑顔で園生活を楽しんでいます。

◆職員は方向性を共有し、連携して保育にあたっています

職員は保育理念、保育方針を法人内の研修で学んでいます。園長は折に触れ、理念、方針の話をして、具体的に保育にどう反映しているのか、問いかける機会を作り、職員が理解をして保育をおこなっているのか、確認しています。職員はワンフロアの利点を活かし、どのクラスの保育も子どものこともよくわかっているので、会議の場だけでなく、休憩時間などでも職員は保育場面での事例について話題にし、意見を交換して、常に子どものために保育の思いを共有しています。職員間の風通しがよく、楽しんで日々保育をしている様子が観察され、子どもたちが安心して園生活を送ることにつながっています。

◆中長期計画、単年度事業計画の策定が望まれます

現在、中長期計画や単年度の事業計画がありません。年間保育テーマや行事予定などではありますが、理念実現に向けての取組や設備の整備、人材の確保、人材育成など3年後、5年後の先を見据えて、具体的な計画を作った上で単年度に何をしていくのか、その取組の具体的な数値目標を決め、年度の終わりには振り返り、次年度に向けて次には何を取り組んでいくのか、PDCAが明確にされることが期待されます。

◆保育の標準的な手順の整備が望まれます

ワンフロアの保育室で、子どもたちはお互いに刺激を受け合っているのびのびと育っていますが、現在、保育の標準的な手順について文書化されたものではありません。オムツ替えや着替えなどの場面でも、子どもの尊重やプライバシーの保護、権利擁護にかかわる姿勢などを文書化し、確認する仕組みの構築が期待されます。また、現在、1・2歳クラス、幼児クラスは合同のクラス運営がされています。年齢ごとの指導計画はありますが、合同での活動を踏まえた保育のねらいや実施方法が共有できる指導計画の作成が望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受審では、梶ヶ谷園の保育内容や実践には大変高い評価を頂き、改めて法人内

や自園での保育理念や保育目標、方針を研修で学び合い話し合いを繰り返し積み重ねてきたことの成果だと嬉しく思いました。しかし、年数を重ねることで「当たり前」となっていることや計画の不十分さなど改善を図る必要があるところへの気づきも頂きました。

梶ヶ谷園はワンフロアに0歳から5歳児までとそれに関わる大人が生活し、ひとり一人の子ども、職員の特性、個性がお互いを成長に導くことに繋がる大切な存在であることを感じあえる園に成長し続けられるように今回の評価を職員全員でさらに見直して活かせるものにしていきたいと思えます。

たくさんの気づきと学びの機会を本当にありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり